

# 会期末、国会の審議緊迫

参議院  
農水委

## 紙議員、農業「改革」法案を鋭く追及

「品目横断対策」を盛り込んだ農政「改革」に関する審議は、六月十八日の国会会期末をにらみながら、地方公聴会や参考人招致などを設定。近日中にも採決する構えです。水委員会に所属するすべての国会議員に、「慎重な審議と廃案を求める」要

請を強めることにしています。また六月六日に北海道で行われる地方公聴会には、公述人として農

民連の白石淳一副会長が出席し、法案に反対する意見を述べます。

に、現場の声を上げながら法案の矛盾点をすくなく追及しています。

声を紹介。全農家を対象にしてきた小麦、大豆、テンサイ、サトウキビなどの価格保障を廃止して、要件を満たす大規模

「先進地」岩手県の例をあげ、「特定の農家だけいい思いをすることになり、合意形成ができない」といった声を紹介し、「農家の生産意欲を奪うような押し付けはやめるべきだ」と、政府の農政「改革」を批判しました。



農水委員会で日本共産

紙議員は、「生産実績

のない農地は、助成金が

付かないため引き受けが

党の紙智子議員（写真）は、北海道や東北、沖縄などで精力的

に行ってきた現地調査をもと

成の対象にする「改革」法案では、地域営農に打

撃を与えると指摘。また「これまでに築いてきた輪作ローテーションを壊すもの」との北海道の集落営農の問題では、